

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 鈴木 勝

会長エレクト 守屋 紀忠

幹事 守屋 紀忠

第2246回 例会

平成25年8月8日 (晴) No.6

■司会：原 千明

■点鐘：百瀬 恵美子

■合唱：我等の生業

◇プログラム ・8月15日：休会 ・8月22日：河本 親秀さん ・8月29日：インジェクションスピーチ大藤 勉さん

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率	◇欠席者(5名) 小林、宮澤、石山、及川、原卓さん
2246回	19(15)	10	66.67%	—	—	
2244回	19(16)	10	62.50%	1	68.75%	◇メイクアップ(1名) 宮澤さん

◇ゲスト紹介

杉山 考(スギヤマ タカシ)氏

大磯町防災対策担当参与

高谷 紗帆(タカヤ サホ)さん：R財団奨学生応募者
(大磯在住、東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科後期研修医)

◇ひとこと

若い時は老人というのは遠方であって自分が老人になること等想像する人は希です。昭和5年～10年頃は六十歳以上の人は一割程度でしたが現在は老人人口が増加しております。年を取ると神経痛や肩こり、足か腰が不自由になります。人間の細胞数は十兆と言われているが、脳細胞は二十歳以降は一日二〇万個ずつなくなると言われ、人間一生の間に二十五億回搏動するとその細胞を喪う事になり、終わりがやってくるという。以前は年を取ると隠居と言われ、公園のベンチに新聞と老眼鏡を持ち座っている老人が目につくというが、現在はテレビなどが普及されて居りますの

笹尾 政儀さん



でそういう事はなくなりました。我々も必ず年を取るので孤独になり、取捨選択で何が出来るかが老後の生き甲斐とは如何なるものか。今後の生活をどうするか皆さんも良くお考えになったらどうでしょう。

◇会長報告

百瀬恵美子会長代理

人は60兆個の細胞から出来ている。その中で1日に3000億個の細胞が入れ替わっているという。何と1秒に350万個の新しい細胞が体内で作られている。人は皆刻々とみずみずしい姿に生まれ変わっているのでしょう。



人間の体内の水分量は体重の60%と言われております。その水分は1日に約2.5lも身体から失われていきます。500mlのペットボトル5本分の水分が汗や尿などによって体外へ排出されているのです。高温の環境で激しい運動をすると1時間に2lの汗が出る事もあると言われる。熱中症対策に水分補給が欠かせないのも納得できます。だが大量の水を飲んでも全てを一時に吸収できるわけではないようです。喉の渇きを覚える前にこまめに飲む事が大事と言われま

す。

猛暑が続く毎日ですが夏は始まったばかり、健康にくれぐれも注意しながら心も体もフレッシュに生活を送りましょう。

(竹内修二：数字で読み解くからだの不思議) 先週は相澤ガバナーをお迎えし、無事公式訪問を終える事が出来ました。皆様有り難うございました。ガバナーからお褒めのメッセージを頂きましたが出席人数がもう少し多ければ良かったなと思っております。

高谷さんようこそお出で下さいました。ゆっくり楽しんで行って下さい。

杉山防災担当参与様、どうぞ今日は宜しくお願致します。

◇幹事報告

回覧：先日のなぎさの祭典のお礼状（実行委員長の井上浩吉さんより）

例会変更：平塚南RC

週報：茅ヶ崎RC

活動計画書：茅ヶ崎RC

第1回IM実行委員会議事録

地区職業奉仕セミナー：石山さんに出席依頼

配布：ガバナー月信2号(8月号)

例会終了後理事会があります。理事でない方も時間があれば参加下さい。議事としては高谷さんの財団奨学生推薦、小諸RC50周年式典参加=10月5日、6日、マイクロ・サロンバスをチャーター=の件があります。

先日配布の会員名簿誤りがあったので差し替えて下さい。

第2244回会報の日付7/18を7/25に修正お願いします。

◇委員会報告

☆新宅文雄さん：

第1回IM実行委員会報告

(議事録配布)

今後月1回実行委員会を開きたい。

基調講演については片野さんを通じて伊藤和明先生と交渉中。

語り部については南三陸町観光協会に連絡し、交通費、宿泊費、出演料等を伺っています。又河本さん



守屋 紀忠幹事



☆新宅文雄さん：

第1回IM実行委員会報告

(議事録配布)

今後月1回実行委員会を開きたい。

基調講演については片野さんを通じて伊藤和明先生と交渉中。

語り部については南三陸町観光協会に連絡し、交通費、宿泊費、出演料等を伺っています。又河本さん

にいわき鹿島RCさんに問い合わせして貰っています。

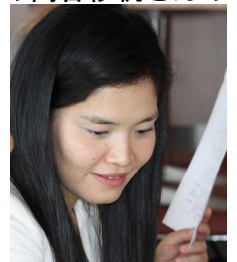
大磯クラブでどうしてもやるべき事は会計で担当を及川さん、SAAは原さんに是非お願いします。毎年やっている友愛コーナーの他に震災グッズの展示・即売会をやりたいと考えています。(詳細は報告書参照)

☆河本親秀さん：

1. 10月米山月間卓話：10/1又は31日、中国人奨学生の王鄆冬さんを指名しました。大磯小異文化理解授業に出講して良い話しをしてくれたのと、日中間の関係がこじれていることから敢えてお願いしました。但しこちらの希望が叶うかどうかは未定です。

2. 地区ロータリー財団奨学金B希望の高谷紗帆さんの

紹介：大磯町小磯在住、北海道大学医学部卒業(平成20年)、国立国際医療研究センター戸山病院の内科初期研修医、神奈川県警友病院内科後期研修医を経て24年4月から東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科医師。今年度から奨学金制度が変わり、今まで財団本部が管理する方式から各地区独自の計画で奨学金制度を創ることが出来る様になりました。高谷さんの留学希望先は英国の大学で、ロータリー財団6つの重点分野の疾病予防と治療の研究を選択されます。願書提出期限は10月31日、大磯RC会長署名が必要です。この後の理事会で推薦するかどうかについて面接します。



☆スマイルボックス 太田 知加子さん

・百瀬恵美子さん：皆さん、今日は、お元気ですか。杉山参与様、どうぞよろしくおねがいます。高谷さん、ゆっくりして下さい。

・守屋 紀忠さん：杉山考大磯町防災担当参与様本日はよろしくお願致します。

・河本 親秀さん：ゲストスピーカー杉山様、本日はようこそ。お話し楽しみにしております。高谷沙帆さんようこそ。

・新宅 文雄さん：杉山考参与本日はよろしく願い致します。高谷沙帆さんようこそいらっしゃいました。

・太田 知加子さん：杉山様お話し楽しみにしています。高谷様ゲストでようこそお越し下さいました。

卓話：講師杉山 ^{タカシ}考氏紹介;新宅さん

今年の4月に大磯町のシステムが変わり、参与という制度を創りました。参与は二人、副町長クラスです。「大磯町の重要施策について専門的知識・経験を生かし専門的且つ技術的な助言・提言を町長に行う事」となっています。杉山さんは昭和48年神奈川県庁に入庁、青少年行政について20年程携われ、その後防災行政を担当、平成21年3月退職。21年4月神奈川県総合防災センターに入られ、本年3月同所を退職。

今年度のIMで桐本ガバナー補佐がどうしても震災についてやりたいと言われていて、以前から知っていた杉山さんにお会いして話を10分聞いて感動し、お役人らしさが全く無く、仕事を極められた人との感じがして、どうしても卓話に来て欲しいとお願いした次第です。杉山さん宜しく願い致します。

◇ 卓話

震災に学ぶ(危機管理)

「事前防災=減災」自分の命は自分で守る 大磯町参与 杉山 ^{タカシ}考氏



(卓話の次第配布)

パラパラと大きな拍手があったら嬉しいのですが
…(拍手・笑い)

「災害が起こったら自分の身は自分が守る」それしかない。他の人は守ってくれない。自分が助

かれば人を家族を助ける事が出来る。色々ところで話をするが半分の方は分かって半分の方は分からない。子供は勉強をすると標準の点数が出るが大人は先ず自分を標準に考える。皆さん手を組んで下さい。右手の親指が上に来る人と反対の人がいます。手を組み替えて下さい。違和感がありますね。最初に自分が勝手に組んだ方が自分の標準なんです。あちこちで話をしますが、自分の標準の中に留まっている方が非常に多い。県の総合防災センターに現役で6年、専門員になって4年、通算10年いました。年間4万人くらいお客さんが来られます。色々初歩的な防災の話をするのですが聞いて直ぐ忘れてしまう。自分は水も食糧も揃えている。これで防災の準備は出来ていると言う風に考えてしまうのですが、それが大きな間違いなんです。極端に言えばそんな物は要らない。それは命が助かった人が使うんです。その前の助かることをしないと駄目です！大磯町では3年前から防災のお手伝いでお話に来ていますが、まだまだ住民の意識は低いです。これだけ言っているのに命の助かることをどうしてしないの？と思いますがその人のその人の標準が違うのでうまく進んで行かない。

東日本震災の津波で平均483メートル逃げた人は助かっている＝勿論消防の方で防潮堤の扉を閉めに行って亡くなった方々は別ですが＝地震が起きたらテンデンコに逃げる事です。皆さん大磯にいる時は地震即津波と言う事はありませんが地方に旅行などで行かれた時にはその事を頭の片隅に置いて置けば助かります。

90年前の関東大震災の時に秦野と小田原の境の地下15キロ位のところが震源地で、二宮・三浦半島・房総沖に達しそこで大地震になった。その時に震生湖(閑院宮様が名付親)が出来た(自然湖 1923年(大正12年)9月1日の関東大震災の時に、秦野渋沢丘陵の一部がくずれて谷川をせき止めたためにできた「せき止め湖」。日本一 新しく美しい自然湖と言われています。周囲は約1kmと小さな湖です)。関東大震災の時の死者は10万。当時は木造で昼時、火災で多くの方が亡くなった。神奈川県でも電車の転覆や土砂崩れなどで相当の方が亡くなっています。

神奈川県には神縄一国府津断層があり、こういう事が何時来てもおかしくない時代です。特に東海地

震と東南海地震連動です。東海地震は過去に単発で起きたことはない。東海が揺れて東南海地震が、東南海地震が起きて東海がと言う事で単発はない。今回も連動型になるかと想定されています。

地名から危ない土地が分かる、例えばYがつく水の多い土地＝河内、川内、浦賀など。又、欠けると言う字のつくところ等を調べて行くと今自分たちがどの様な土地に住んでいるかが分かる。元々自分たちの住んでいる日本は海でした。日本の国は7千万年前まで大陸の朝鮮半島からロシアにくっついてた。今の日本海は当時は太平洋に当たる。2千万年前からひび割れが始まって、火山や海底爆発が起こって今ようになったのが1万3千年前。長野の塩尻に恐竜時代のマンモスの化石が出た事で大陸についていたことが分かる。伊豆半島も200万年前に太平洋から流れ着きプレートが日本のプレートに潜り込んでいる。小田原ではその関係する地震でお城が5回崩れ、焼けています。そう言うところに我々は住んでいるのです。

大きな災害は必ず来ます。その時にどうしたら助かるか？どうしたら被害を小さくできるか？家の中で箆箆を固定したり家具の転倒を防止したりして自分が助かることをきちんとやること。下敷きになったり、逃げ道を塞がれてしまうことが一番怖い。寝室には何も置かない。廊下には何も置かないのが一番。大分前の仙台地震の時にブロック塀が倒れて下敷きになり十数人が亡くなった。死んだ人の保証は塀の持ち主がやるんです。ですから倒れないようにやり直すことが大事です。震度6強以上だと昭和56年以前建築の家では倒れるものがある。2階建ての家では直下型地震で土台から通し柱が外れて倒れます。2階の方が安全です。一部屋だけでも耐震にしておくこと。年数を掛ければ全室やるのにそんなに負担にはならない。

家具が倒れたり家が潰れても大丈夫な耐震ベッドがあります。30~50万円位。家を直すのではなくて耐震にする例として県の総合防災センターに展示してあります。

自分だけで済むものと地域の人達とやらなければならない問題：避難訓練等を繰り返し行う事。地震は明るい時、平穏な時に来るとは限らない。真っ暗で雨の中、真冬の寒い時、周りから火災が発生している時等幾らでも違う状況があるので何回も訓練して損はありません。行政がやると形式的なことになるので地域でやりたい訓練をする事を提唱して来ました。最初は批判ばかりでしたが、最近大分意識が出て来て、大磯高校では津波が心配、馬場地区では

土砂崩れ災害が心配等それぞれの地域毎に訓練することによって地域は自分が守ると言う意識が出て来て、それから発展して家族で話し合い、避難所や帰宅難民になった時の連絡方法＝NTTの伝言板電話の利用、携帯メールなど＝を話し合う。災害弱者(障害者・高齢者)を地域で守る。何はともあれ自分の命が守れなければ家族の命も地域の人の命も守れない。災害にみんなで取り組んで行けば減らすことが出来る。昔は天災は忘れた頃に来ると言われたが、**天災は忘れなくともやって来る。備え有れば憂い無し**と言いますが**備えがあると迷いが無い。「天災は時無し、場所なし、待ったなし」**日頃の自分に対する備え、家族に対する備え、地域に対する心構えをしっかりとすることによって被害を少しでも減らす事。先ず自分の家庭内から危ない物が無いかチェックする。例えば屋根瓦を変える時には鋼板にするとか、リフォームする時耐震の柱や壁に取り替える。壁に筋交いを入れる等。地震予知は出来ないから、出来る範囲で心構えをしておくことによって減災に努めて頂きたい。

(編集者)

上記卓話に関連して大磯に関して津波の影響度、直下型地震の可能性、活断層の有無・調査等について熱心なる質疑応答がありました。